

国立大学法人名古屋工業大学 学長選考会議（27-第2回） 議事要旨

日 時 : 平成27年11月19日(木) 16時50分～17時30分
場 所 : 名古屋工業大学 4号館 会議室2
出席者 : 浅野 幹雄、伊藤 正彦、榊 直樹、堀 龍之、
木下 隆利、湯地 昭夫、小椋 史朗、江龍 修、小畑 誠、春日 敏宏、
多賀 圭次郎、仁科 健
議 長 : 榊 直樹
構成員 : 15名中 出席者12名(過半数8名) 成 立
配布資料 :
資料1 国立大学法人名古屋工業大学 学長の業務執行状況の確認に関する申合せ(案)
資料2 「学長の業務執行状況の確認」の具体的な実施方法等について(たたき台)

議事に先立ち、議長より、前回(9月17日)の議事要旨について、各委員へ事前に照会したところ、特段の修正意見等がなかったため、公式ホームページにて、公表する旨の説明があった。

議題1 : 国立大学法人名古屋工業大学 学長の業務執行状況の確認に関する申合せ(案) について(審議)

総務課長より、学長の業務執行状況の確認に関する申合せ(案)について説明があり、委員より、主に以下の内容の意見があり、後日、意見を踏まえ修正した申合せ(案)をメールにて照会し、各委員の確認を得て、決定することとなった。

○第2条第1項は、第1条に同様の内容があるため不要である。また、第1項を削除するにあたり、第2項の言い回しを少し工夫する必要がある。

○第2条の見出しは、(組織)ではなく、(方法)としてはどうか。

○第3条の見出しは、第3条には、ヒアリングの内容が記載されているため、(方法)ではなく(ヒアリング)としてはどうか。

○第4条第1項の「2年に1度行う」という文言では、任期中に2年に1度確認を行えば済むように読み取れてしまうため、「おおむね2年間毎に1度行う」や、正確に「2年目及び4年に」というような記載した方がよい。

○第4条第2項の「業務執行状況の確認を実施しない年には」という表現は、必要に応じ学長と意見交換を行えるように「必要と認める時は、随時、」という表現にした方がよい。

議題2：「学長の業務執行状況の確認」の実施方法等について（意見交換）

総務課長より、「学長の業務執行状況の確認」の具体的な実施方法等について（たたき台）について説明があり、委員より、主に以下の内容の意見交換がなされ、これらの意見を一度とりまとめ、後日、メールにて各委員へ照会し、各委員の確認を得て、「学長の業務執行状況の確認」の実施方法を決定することとなった。

○学長選考会議は、選んだ学長について、その方個人についてということではなく、その方を中心にして、大学がいかに充実・発展していくのかということのために、業務執行状況の確認を行うという役割を負っている。

事務局作成のたたき台では、業務執行状況の確認の際に使う資料として、「国立大学法人評価委員会の実績報告書に係る書類」と「監事による監査関係書類」があるが、法人評価委員会や監事がお墨付きを付けたものをそのまま追認するのではなく、学長選考会議が、確認を行うことが重要である。

また、業務執行状況の確認については、当日、質問を行って回答を求めるのではなく、事前に、学長へある程度の質問事項を伝えておき事前の準備をしてもらい、その上で十分な説明を受けてこそ、全うな評価を行うことができると考える。

○事務局作成のたたき台では、業務執行状況の確認の際に使用する資料に、「その他学長選考会議は、業務執行状況の確認を行うにあたり必要とする書類」として、「名工大版理工系人材育成戦略」の資料があげられて、これはどのように使うことになるのか。

○「名工大版理工系人材育成戦略」の資料は、この戦略の実施に向けて、どの程度進んでいるのか、その時点での実績の生データを示す形の資料となる。

○「名工大版理工系人材育成戦略」の実現に向け進めている具体的な事柄について、これまでの実績や、舵取りがどうかということを判断することになる。

○事務局作成のたたき台には示されていないが、学長が選考の際に述べられた「所信表明」も業務執行状況の確認を行うにあたり、必要な書類であると考ええる。

最初に約束したことに対し、どういうこと行い、その結果がどうだったか、学長自身から、是非伺いたい。

業務執行状況を確認するにあたり、「所信表明」は重要な要素であり、議題1の申合せ（案）の第3条に、「所信表明に関する資料」を追加すべき。

○「所信表明に関する資料」は、用意というより、事前に学長に伝え、学長選考会議の場で、学長に答えてもらうということになるだろう。

○学長は、所信表明時に、大学の本務である教育・研究など、それぞれについて、どのような方針で大学を運営していきたいかを述べられた。それに対し実際に行ったことや、また今後は、こ

のように大学を運営していきたいという、学長としてのお考えを、学長選考会議が確認することが重要である。

○大学は組織として動いているが、学長本人の目標に対して、どのくらい実績が出ているか、そして現時点でどういう課題があって、今後どうしていきたいのかということ学長から伺いたい。

○今回の業務執行状況の確認は、任期4年の中間点で行うものであり、中間レビュー的な意味合いもある。そのため、学長就任後の2年間だけではなく、今後の2年間の大学運営に対しての改善や展開ということも伺い、確認するというのが重要である。

○今回の確認を踏まえて、次の2回目のヒアリングを行い、学長の評価をどうするのか、ということになるのだと思う。

○資料としては、その他に先程の経営協議会の際に報告があった「財務レポート」や、「科研費など外部資金の獲得数」、「論文の引用数」などの数値的に分かる資料があるとよい。

○「所信表明書」を含め業務執行状況の確認の際に使う資料については、各委員が、事前に目を通しておくこと、また、大学がホームページで公表している重要な情報を、日常的にチェックしておくことも重要である。

質問事項についても、事前に学長に知らせ準備してもらおう。また、それに限定せず当日のやり取りを踏まえ、さらに自由に質問・意見交換するという形で進めるとよい。

以 上